

小学校区別アクションプラン

小学校区別まとめ

本市には現在21の小学校区があり、これまで各校区において校区社会福祉協議会を中心にそれぞれの地域の課題解決に向けた取組みを実施してきました。

第5次計画の策定にあたって、地域ごとに課題が異なることから小学校区別に「協議の場」を活用して、ワークショップを開催し、第4次計画策定後の取組みについて振り返り、令和6年から令和10年までの5年間の行動計画について検討しました。

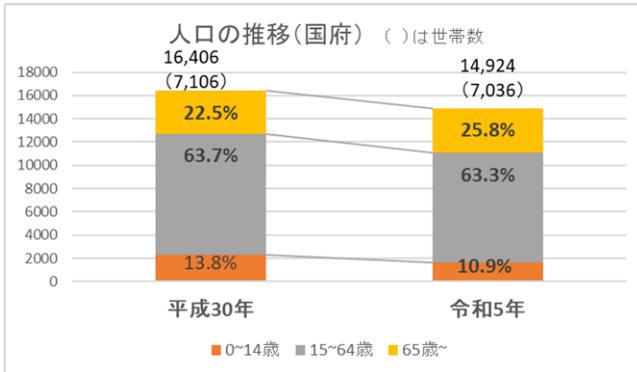
ここでは、各小学校区の活動テーマ、目標、目標を達成するための具体的な取組みについての方向性を示しています。

※校区別アクションプランの地域別人口は、平成30年は10月末、令和5年は9月末の人口になります。

※校区別アクションプランの基礎データは、令和5年10月時点のものとなります。

国府校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	18
	校区社協役員数	21
	校区社協ボランティア数	75
	民生委員・児童委員数	26
	老人クラブ会員数	704
	いきいきいずみ体操団体数	10
	おたがいさまサポーター数	32
	高齢者見守り協力事業所数	17
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
自主防災組織の有無	有	
対象者数	ふれあい訪問利用者数	112
	誕生月訪問利用者数	358
	避難行動要支援者登録者数	94

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.災害時の避難体制や避難所の運営がわかりやすく示されているまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生・中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	2.雨の日でも遊べる場所
3.子育てを応援してくれる場所	3.自由に使える友だちとのたまり場所
	3.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの登下校の見守り	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.地域や世代を問わない誰もが食を通して集える場づくり	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.災害ボランティア	3.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 地域のご近所さん同士など、身近な単位でのつながり作りや防災啓発活動を大切に、何かあった時には助けあえる関係づくりを目指していこう。
- ❖ 子どもの遊び場や交流の場を作ったり、世代間交流など、子どもから大人まで、誰もが住みやすい地域の実現を目指し、話しあいの場(協議の場)を定期的にもとろう。

小規模の防災訓練や啓発を通じて、 地域がつながり、挨拶できる関係を作っていこう！

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 防災の訓練や啓発を身近なところから行っていこう（自助、近助、共助）

【具体的な取り組み】

- 各町や班単位での自助の啓発、啓蒙に取り組んでいこう
- 多くの人に参加したくなる楽しみを交えた防災訓練等を行おう
- 各町や組単位で、共助の啓発のために出来ることから取り組んでいこう

重点取り組み②

【目 標】 近所のつながり、コミュニケーションの場を作ろう

【具体的な取り組み】

- いきいきサロン等の場を活用し、地域の交流やみまもり活動を進めよう
- ニュースポーツを通じた交流の場や自治会館等での子どもの遊び場作り、祭りなどの世代間交流の機会を応援しよう
- 町会等の身近な単位で、地域のつながり作りのため、中高年の方の交流の場作りについて、検討を行っていこう

重点取り組み③

【目 標】 地域課題や取り組みについての話しあいや相談できる場を作ろう

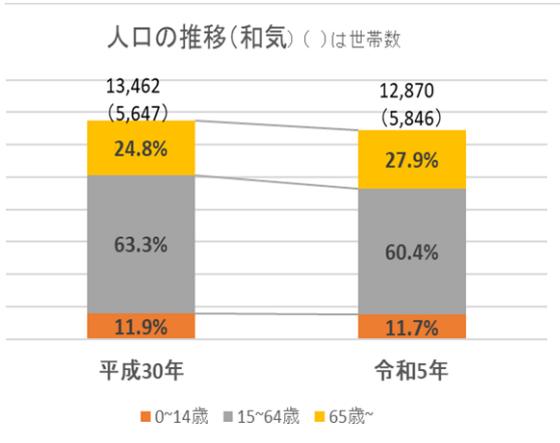
【具体的な取り組み】

- 地域の関係団体の協力や情報共有が出来るように、話しあいの場を設けよう
- 自治会等の地域関係団体の役員に係る負担の軽減や高齢化対策について、皆で出来ることを考えていこう
- 人とつながりにくい、悩みを抱える人が、相談できる窓口、民生委員等の活動の周知を行っていこう



和気校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	10
	校区社協役員数	14
	校区社協ボランティア数	48
	民生委員・児童委員数	18
	老人クラブ会員数	440
	いきいきいずみ体操団体数	7
	おたがいさまサポーター数	17
	高齢者見守り協力事業所数	12
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
自主防災組織の有無	有	
対象者数	ふれあい訪問利用者数	7
	誕生月訪問利用者数	201
	避難行動要支援者登録者数	105

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
2.買物が便利なまち	
3.困りごとの相談窓口がわかりやすいまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生・中学2年成)
1.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	1.雨の日でも遊べる場所
2.高齢者の経験や強みを活かせる場所	2.自由に使える友だちとのたまり場所
3.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	3.思いっきり遊べる広い公園や広場
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年成)
1.高齢者の地域でのみまもり訪問	1.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
2.子どもの居場所づくり	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
3.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	3.自然や環境の保ご活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 避難行動要支援者名簿等の個人情報の取扱いや見守り時に気を付けることなどを学ぶ・共有する機会を作りたい。
- ❖ いきいきサロンに子どもたちを招く等地域での子どもの居場所について考えたい。

自分から「困った」と言える、顔の見えるまちづくり

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 顔の見える体制づくり

【具体的な取組み】

- 3.4 か月に1度、地域活動についての話しあいの場を設けよう
- 懇親会等を開催し、各種団体のつながりを強化し、ネットワークを広げよう
- のぼり等を活用して地域活動の周知・PR をしよう

重点取組み②

【目 標】 みまもり活動を活発に行うまちづくり

【具体的な取組み】

- 現在の魅力ある地域活動を今後も継続をしよう
- 見守り活動の大切さを情報発信し、住民のみんなで和気校区を見守ろう
- 名簿の活用方法や個人情報の取り扱い等について、研修会等を開催しよう

重点取組み③

【目 標】 子どもが集まれる場づくり

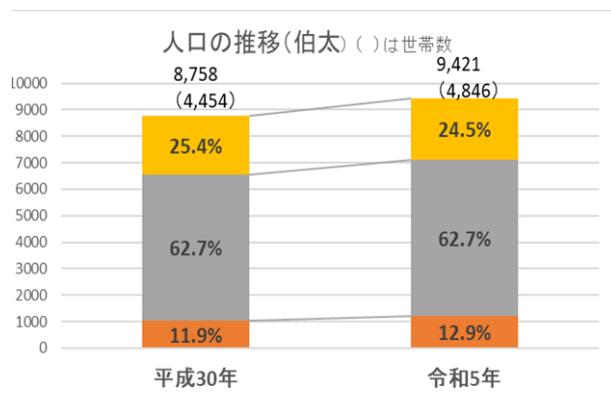
【具体的な取組み】

- 小中学校と連携を図り、子ども達が地域で活躍できる場を広げていこう
- 子ども達に向けて、長期休暇に映画会を開催しよう
- サロン活動や地域活動に子ども達が参加できる仕組みを考えよう



伯太校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	12
	校区社協役員数	16
	校区社協ボランティア数	43
	民生委員・児童委員数	17
	老人クラブ会員数	349
	いきいきすみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	12
	高齢者見守り協力事業所数	8
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	52
	誕生日訪問利用者数	218
	避難行動要支援者登録者数	118

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助け合いが多いまち	
3.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生・中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	1.雨の日でも遊べる場所
3.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	2.思いっきり遊べる広い公園や広場
	3.体育館やプール
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの登下校の見守り	
1.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子どもの居場所づくり	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.子育て世代の交流の場づくり(子育てサロンなど)	
2.高齢者の交流の場づくり(いきいきサロンなど)	3.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる

地域での話し合い(ワークショップ)での意見

- ❖ 災害時など、何かあった時に助け合えるように、日頃からのつながり作りを大切にしていこう。災害について、日頃から考える機会を作っていこう。
- ❖ コロナ禍で休止していた様々な世代間交流活動の再開を少しずつ検討していこう。
- ❖ 子育て支援の取組みや、子どもとの交流をもっと増やしていきたい。

伯太校区のこれから、未来に向けて、 世代を超えて楽しくつながる！

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】地域のつながりを再び深められるような、楽しく参加できるイベントを検討する

【具体的な取組み】

- 小学校や老人クラブ等の地域の各種団体と連携し、昔遊びや伯太の歴史等に通じ、住民の交流を促進する
- 以前の取組みである正月の寄せ植えやカラオケ大会を継承する
- 認知症の症状があっても生活しやすい町づくりのため、認知症サポーター養成講座、認知症等声掛け見守り訓練などの実施を検討する

重点取組み②

【目 標】子育てを応援する取組みに協力する

【具体的な取組み】

- 子どもの居場所づくりとして、仲良しクラブ（学童）等の活動を支援する
- いきいきサロン等で保育園児等の子ども達との世代間交流を行う
- 子どもの居場所、遊び場を地域として増やしていくための検討を行う

重点取組み③

【目 標】防災をみんなの関心事として捉え、日頃からのつながりも大切にする

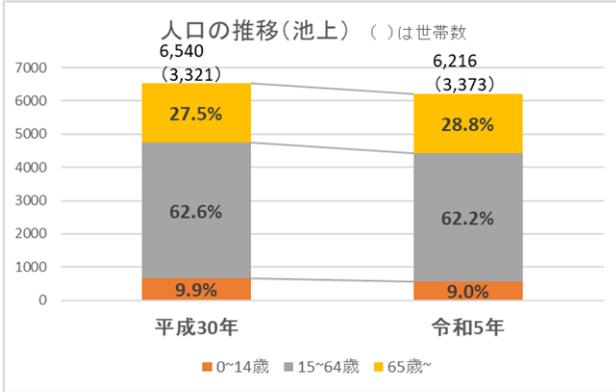
【具体的な取組み】

- 自主防災組織や警察と協働し、防災訓練の実施を目指す
- 情報伝達のため、町内有線放送や伯太校区のグループラインを作り、有事の際の連絡方法を検討する
- 防災用の備蓄品等を活用した食事会等を通じ、防災について皆で考える機会を持つ



池上校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	7
	校区社協役員数	29
	校区社協ボランティア数	43
	民生委員・児童委員数	12
	老人クラブ会員数	96
	いきいきいずみ体操数	2
	おたがいさまサポーター数	6
	高齢者見守り協力事業所数	9
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
対象者数	自主防災組織の有無	有
	ふれあい訪問利用者数	10
	誕生月訪問利用者数	183
	避難行動要支援者登録者数	48

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.インターネットが使えるしせつ
2.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の地域での見守り訪問	1.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.災害ボランティア	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
3.子どもの登下校の見守り	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.施設などへの慰問及び交流のための訪問	2.自然や環境の保ご活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ いきいきサロンや地域で行われているふくし活動のPRを行うことで、興味を持ってもらい参加者や担い手を増やしたい。
- ❖ 子どもから高齢者まで、地域の人同士が顔の見える関係づくりを進めたい。

年代関係なくあいさつできるまち池上

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 ボランティアの担い手を増やし、サロン活動や交流が活発なまちづくり

【具体的な取組み】

- 活動をPRするための広報物（チラシ）を作って周知する
- 男性が参加しやすくなるいきいきサロン活動メニューを考え、男性の地域参画を促す
- 若い世代も気軽に参加できるカフェサロンを行い、世代間交流の場を作る

重点取組み②

【目 標】 みんなで子どもを見守り育てるまちづくり

【具体的な取組み】

- 登校時のみまもりやあいさつから顔なじみを増やす
- 町内清掃に併せて子どもたちが楽しみ地域の活動を学べる場を作る
- 学校と地域が顔の見える関係を築き、子どもを中心としたネットワークの仕組みを作る

重点取組み③

【目 標】 安心して住み続けられるまちづくり

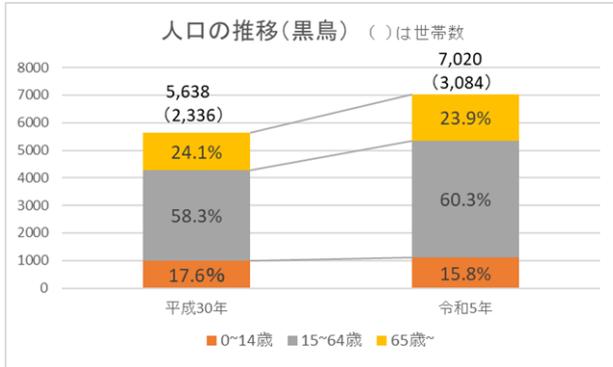
【具体的な取組み】

- 住民一人ひとりが災害について考えるための啓発を行い、地域での防災力を高める
- 少年団などの若い世代の認知症サポーター養成講座の受講者を増やし、地域の見守り力をあげる
- 日々のつながりから隣近所のつきあいを大切にするまちの風土を育む



黒鳥校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	13
	校区社協役員数	23
	校区社協ボランティア数	90
	民生委員・児童委員数	11
	老人クラブ会員数	194
	いきいきいずみ体操数	5
	おたがいさまサポーター数	6
	高齢者見守り協力事業所数	6
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	20
	誕生月訪問利用者数	99
	避難行動要支援者登録者数	53

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
1.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
2.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	2.体育館やプール
3.子育てを応援してくれる場所	3.インターネットが使えるしせつ
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの登下校の見守り	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.高齢者の地域での見守り訪問	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	
3.子どもの居場所づくり	3.自然や環境の保ご活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 防災や見守り活動(子どもから高齢者まで)では、関係団体の連携や情報共有が大切なため、定期的に話しあいの場(協議の場)を設けることを目指していこう。
- ❖ 黒鳥ならではの文化や歴史を大切にしたい気持ちも大切にしていきたい。
- ❖ 子どもを交えた活動や居場所作りについても、地域全体で考えていこう。

スマイル黒鳥を目指して！

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 子どもへの暖かいまなざしを大切に、ふれあいを高めていこう！

【具体的な取組み】

- 町会館、自治会館を開放し、親子で楽しく過ごせる居場所作りを検討する
- 昔遊び等の世代間交流ができるイベントの開催を目指す
- いきいきサロンとのコラボ等、食を通じた子どもの居場所作りについて、学校とも連携し、地域ぐるみで子育てを応援する

重点取組み②

【目 標】 防災・防犯のまちづくりを継続して行おう！

【具体的な取組み】

- 災害時の持ち出し品準備の啓発や校区のハザードマップ作製等、防災の自助の意識を高める取組みを行う
- 高齢者等への犯罪を防ぐため、地域包括支援センターや警察と連携し、防犯の話聞く機会を設ける等の啓発活動を積極的に行う
- 定期的な防災機器や備蓄品の点検等を通じ、自主防災の大切さを地域全体で継続して取り組む

重点取組み③

【目 標】 黒鳥らしい「まちいなか」づくりを目指そう！

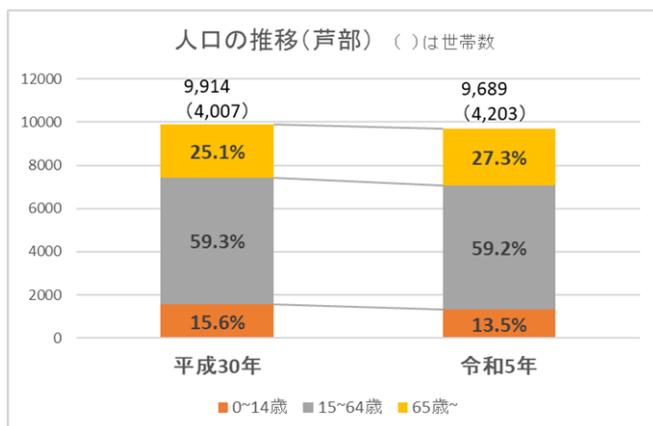
【具体的な取組み】

- 次の世代に向けた黒鳥の歴史と文化を継承する取組みを応援する
- 協議の場を開催し、町会、民生委員児童委員、老人クラブ、ボランティア等の情報共有や連携、つながり作りを行う
- 地域活動の担い手を増やすため、子どもの登下校の見守り隊や高齢者の見守り活動等のボランティアの参加や体験を校区全体へ呼びかける



芦部校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	9
	校区社協役員数	27
	校区社協ボランティア数	59
	民生委員・児童委員数	14
	老人クラブ会員数	898
	いきいきいずみ体操数	5
	おたがいさまサポーター数	6
	高齢者見守り協力事業所数	17
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	14
	誕生月訪問利用者数	162
	避難行動要支援者登録者数	76

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
3.買物が便利なまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.雨の日でも遊べる場所
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.自由に使える友だちとのたまり場所
3.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	3.思いっきり遊べる広い公園や広場
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの登下校の見守り	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
1.高齢者の地域での見守り訪問	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
2.子どもの居場所づくり	3.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 地域における世代間交流や集い場の機会の活性化等、住民が楽しめる取組みを皆で無理のない範囲で考えていこう。
- ❖ 防災に対する自助の意識を高めるため、啓発活動を少しずつ行っていこう。
- ❖ 地域全体で子育てを応援していこう。

住んでよかった、住んでほしい芦部校区

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 子育てを校区全体で応援できる地域を作る

【具体的な取組み】

- みんなで楽しめる田植え体験や餅つき大会等の企画を検討する
- 子どもと老人クラブのグランドゴルフ大会など、子どもから高齢者まで、みんなが交流できる催しを今後も継続する
- 校区の子育てサロンの活動との連携や協働を進める

重点取組み②

【目 標】 災害に強い地域の基盤を作る

【具体的な取組み】

- 町会や自治会、又は校区全体での防災研修会を実施し、地域の防災への啓発を行う
- 防災や減災にかかる、AED や消火器の使い方等の訓練を行う
- 避難行動要支援者への支援を検討する

重点取組み③

【目 標】 地域の顔見知りが増え、つながりを作れる場を増やす

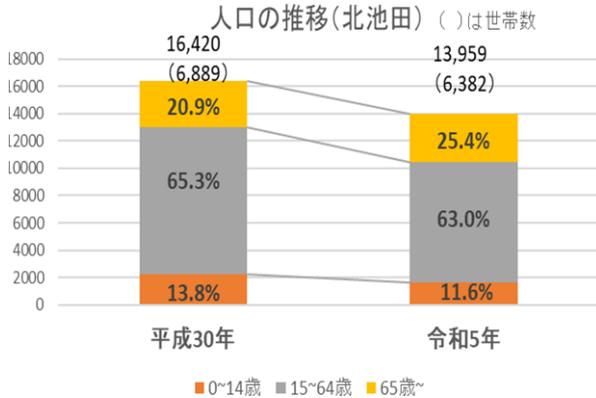
【具体的な取組み】

- いきいきサロンの継続と活性化を目指す
- 見守り隊や防犯パトロール、夜警などの活動を通じて、地域のつながりや安全を守る
- 活動の基盤となる話しあい（情報共有）の場を整備し、地域の団体の横のつながりの強化を目指す



北池田校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	14
	校区社協役員数	15
	校区社協ボランティア数	46
	民生委員・児童委員数	20
	老人クラブ会員数	1421
	いきいきすみ体操数	7
	おたがいさまサポーター数	31
	高齢者見守り協力事業所数	8
	子ども食堂(子どもの居場所)数	2
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	7
	誕生日訪問利用者数	98
	避難行動要支援者登録者数	87

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.災害時の避難体制や避難所の運営がわかりやすく示されているまち	
3.困りごとの相談窓口がわかりやすいまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	2.自由に使える友だちとのたまり場所
2.障がい児やその保護者を支援する居場所	2.体育館やプール
3.地域の誰もが参加できる地域食堂	3.雨の日でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の地域での見守り訪問	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.施設などへの慰問及び交流のための訪問	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.子どもの居場所づくり	3.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
3.地域や世代を問わない誰もが食を通して集える場づくり	

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 地域の団体が連携、協力し、校区全体での活動や交流の機会を少しずつ増やしていきたい。
- ❖ 子どもが自由にいきいきと遊べる場所づくりを地域としても応援していきたい。
- ❖ 大人も子どもも、あいさつを通じて、人と人とのつながりを作っていければと思う。

北池田校区の活動テーマ

つながり、見守り、支え合う北池田

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 みんなで地域住民をささえあう仕組みづくり

【具体的な取組み】

- 認知症になっても安心して生活できるように、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての理解を深める 福祉サービスや窓口を学ぶ
- 誰もが集える食事会の開催検討や男性が集まりやすい場作りを検討する
- 見守り活動をしやすいように、見守り活動の重要性や住民同士がつながることの必要性や理解について伝え、見守り方法や孤立しがちな方への関わりについて検討を行う

重点取組み②

【目 標】 子どもの笑顔があふれ、見守りの目がある地域づくり

【具体的な取組み】

- 運動会、KIK フェスタ、夏休みのラジオ体操などの地域の催しを盛り上げ、子どもの居場所づくりに取り組む
- 子ども達がのびのび遊べるように町会広場の開放を目指す（時間とルールは守ろうね）
- 各種団体の協力のもと、元気っ子プラザの活動（月 1 回）を支援する

重点取組み③

【目 標】 地域の団体の連携を図り、地域活動の継続や広がりを目指す

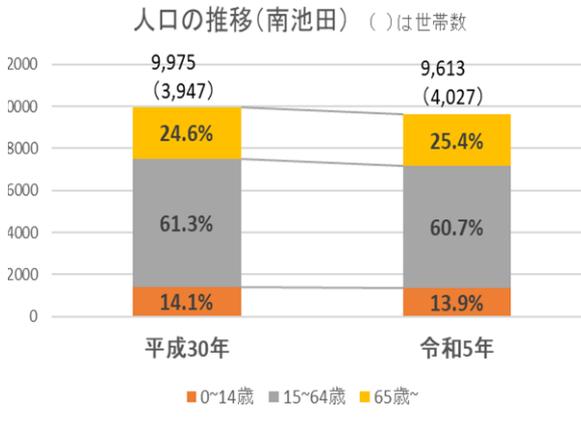
【具体的な取組み】

- 地域の各種団体が、必要に応じて情報交換や情報共有を行う機会を設け、地域の催しやサロン活動等の情報をまとめ、発信する
- 災害の備えについての意識を持てるように、防災の啓発や訓練を行う
- 各団体の役員やボランティアの不足等、担い手不足の対策について検討する



南池田校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	11
	校区社協役員数	30
	校区社協ボランティア数	145
	民生委員・児童委員数	15
	老人クラブ会員数	825
	いきいきいずみ体操数	6
	おたがいさまサポーター数	27
	高齢者見守り協力事業所数	29
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
対象者数	自主防災組織の有無	有
	ふれあい訪問利用者数	4
	誕生月訪問利用者数	163
	避難行動要支援者登録者数	69

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
2.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
3.災害時の避難体制や避難所の運営がわかりやすく示されているまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.子育てを応援してくれる場所	2.インターネットが使えるしせつ
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
	3.思いっきり遊べる広い公園や広場
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの登下校の見守り	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
1.子どもの居場所づくり	
2.高齢者の交流の場づくり(いきいきサロンなど)	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 地域での認知症サポーター養成講座等の開催により、認知症の理解を深めることが出来た。これからも継続していきたい。
- ❖ 若い世代による地域活動の新しいアイデア、取組みも生まれており、それらの声を地域全体に広げていけたらと思う。

若い世代の力も借いて、地域が協力しながら、 皆が主役の笑顔あふれる地域作りを目指す

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 地域の集い場の充実と継続を目指す

【具体的な取り組み】

- いきいきサロンに広い世代が参加、交流できる形や、お寺など、地域の住民が集える場の開拓も検討する
- 男性のサロン参加率が低い地域もあるため、男性が参加しやすいサロン等の交流の場作りも検討する
- 認知症サポーター養成講座など、地域をよりよくするための学びの場の継続や、楽しさも加えていく

重点取り組み②

【目 標】 子どもから大人まで、皆が楽しみ交流できる場を増やす

【具体的な取り組み】

- 校区全体での輪投げ大会等のニュースポーツ大会等、子どもから大人まで楽しめる催しを開く
- 子どもが気軽に集える場作り（例えば駄菓子屋のような場）やママ達の交流の場ともなるような居場所作りも検討する
- 子どもが主役の集い場（サロン）の企画やその呼びかけ方も考える

重点取り組み③

【目 標】 地域の団体が情報共有し、連携、協力できるきっかけを作る

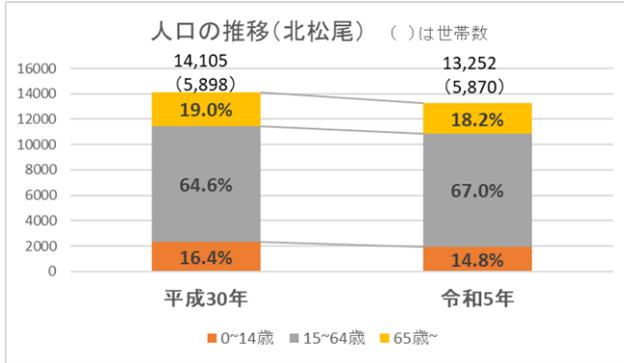
【具体的な取り組み】

- 地域の関係団体の活動や想いを知り、情報共有するため、テーマを定めて話しあいの場を作る
- 話しあいの場に、既存の団体の代表者だけでなく、若い世代にも参加してもらい、若いアイデアを地域のために取り込んでいく
- 地域活動の情報発信について、多くの世代に届くよう工夫し、SNS等の新しい取り組みの取り入れも検討する



北松尾校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	6
	校区社協役員数	41
	校区社協ボランティア数	76
	民生委員・児童委員数	16
	老人クラブ会員数	1023
	いきいきすみ体操数	6
	おたがいさまサポーター数	7
	高齢者見守り協力事業所数	11
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	21
	誕生月訪問利用者数	164
	避難行動要支援者登録者数	94

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.障がい者の理解が進みバリアフリーなまち	
3.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
3.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.障がい児やその保護者を支援する居場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.高齢者の経験や強みを活かせる場所	2.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
2.子育てを応援してくれる場所	
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
	3.体育館やプール
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの居場所づくり	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.高齢者の地域での見守り訪問.	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.高齢者の交流の場づくり(いきいきサロンなど)	3.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 色んな地域活動をしていても、アンケート結果からは、校区社協の活動を知らない人が多いので、広く活動を知ってもらいたい。
- ❖ 災害はいつ起こるか分からないので、日頃から対策や助けあいを考えていきたい。
- ❖ 子どもから高齢者まで交流出来る場を考えていきたい。

北松尾校区の活動テーマ

させえあえる町北松尾

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 「校区社協の活動を知ってもらい、利用する人や一緒に活動する人を増やしていこう」

【具体的な取り組み】

- 北松尾校区の活動についてのパネルや冊子、チラシを作成し周知していく
- 各町会・自治会会報誌への継続的な情報提供で活動を知ってもらい、担い手も募集していく
- 各種行事を通しての活動PR（小さい頃から地域の事を知ってもらう）

重点取り組み②

【目 標】 災害時に助けあえる町にしていこう

【具体的な取り組み】

- 校区で防災研修や訓練を実施していく
- 子どもさんや親も楽しく参加してもらえる災害の訓練を企画し、行事の1コマで実施していく
- 高齢者や障がい者等が安全に避難出来るように考える

重点取り組み③

【目 標】 日々のおしゃべりが出来るように顔見知りの人を増やしていこう

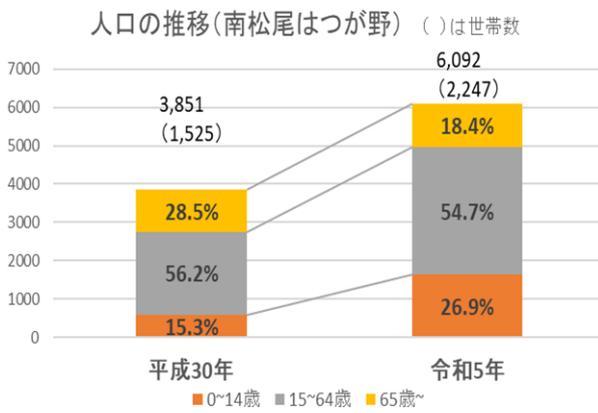
【具体的な取り組み】

- いきいきサロンへ参加した事のない人（高齢者・子ども等）の参加を促す
- 高齢者・子ども等が参加しやすい行事や集いの場を考え試していく
- 老人クラブや各種団体とのコラボで世代間交流の出来る行事等を企画



南松尾はつが野校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	9
	校区社協役員数	21
	校区社協ボランティア数	43
	民生委員・児童委員数	9
	老人クラブ会員数	1001
	いきいきいずみ体操数	1
	おたがいさまサポーター数	59
	高齢者見守り協力事業所数	14
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
対象者数	自主防災組織の有無	有
	ふれあい訪問利用者数	3
	誕生月訪問利用者数	52
	避難行動要支援者登録者数	32

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
2.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
2.買物が便利なまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.高齢者の経験や強みを活かせる場所	2.雨の日でも遊べる場所
2.障がい児やその保護者を支援する居場所	
2.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の地域での見守り訪問	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子どもの登下校の見守り	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	
3.災害ボランティア	3.自然や環境の保ご活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 自然豊かな古くからのまちである南松尾と新興住宅地であるはつが野がそれぞれの強みを活かし、手を取り、うまく融合した地域づくりを進めていきたい。

南松尾とはつが野が「知りあう・学ぶ、繋がる」

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 「災害時助けあい」の仕組みを整え、生きのびる力の強いまちづくり

【具体的な取組み】

- 全町に自主防災組織を立ち上げ、災害時助けあい活動が行えるように事前に役割を決め依頼しておく
- 身の回りの物を災害時に役立たせる方法を学び、日頃からの備え力を身に付ける
- みんなが参加したいと思える楽しいイベント等も取り入れた現実味のある防災訓練を実施する

重点取組み②

【目 標】 地域全体で子育て世代を応援するまちづくり

【具体的な取組み】

- 想いを集め、はつが野（4丁目～6丁目）の中に子育て世代が集い、地域住民と交流できる居場所づくりを行う
- 学校と地域との連携を深め、子どもの成長を共に支え合う仕組みづくりについての話し合いを始める
- いきいきサロンでの子どもたちとの交流を企画し、世代間でのつながりを深める

重点取組み③

【目 標】 南松尾とはつが野が校区としての交流を深め、校区としての繋がり

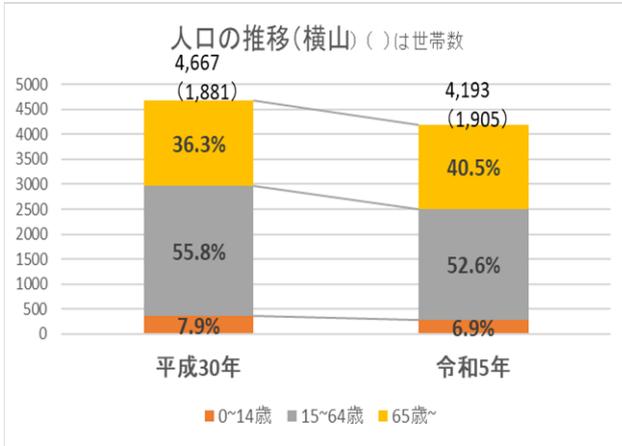
【具体的な取組み】

- はつが野住民を南松尾で行うだんじり祭り等の恒例行事への参加を呼びかけ、歴史の伝承と活動の継続を行う
- 自然豊かな南松尾の強みを活かし、校区に住む親子やおとしよりが参加できる体験型イベントを行い、交流を深める
- 協議の場等の話し合いの場で、南松尾とはつが野それぞれの強みや困りごとを共有し、協議して解決する関係・体制づくりを行う



横山校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	12
	校区社協役員数	33
	校区社協ボランティア数	84
	民生委員・児童委員数	12
	老人クラブ会員数	1419
	いきいきいずみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	12
	高齢者見守り協力事業所数	10
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
自主防災組織の有無	有	
対象者数	ふれあい訪問利用者数	4
	誕生月訪問利用者数	83
	避難行動要支援者登録者数	63

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1. 買い物が便利なまち	
2. 困りごとの相談窓口が分かりやすいまち	
3. 住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1. 放課後に保護者が帰宅するまで安全に子どもが過ごせる居場所	1. 自由に使える友だちとのたまり場
2. 高齢者の経験や強みを活かせる居場所	2. 思いっきり遊べる広い公園や広場
3. 子育てを応援してくれる居場所	3. 雨でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1. 子どもの登下校の見守り	1. 年下の子どもの遊び相手をしたり、面倒をみる
1. 地域や世代を問わない誰もが食を通じて集まれるみんな食堂	2. 赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2. 高齢者の地域での見守り訪問	3. 年下の子どもの勉強をみたり、話し相手になる
2. 高齢者の交流の場づくり	

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ コロナ前のように校区がー丸となって行うイベントを再開したい。まずは、若い人たちの声を聴き活動を進めたい。
- ❖ 校区全体の防災意識が高まるように、災害時の具体的な避難手段や支援のマニュアル化について考えていきたい。
- ❖ 若い人が横山に住みたくなるよう魅力的なまちづくりについて考えていきたい。

横山校区の活動テーマ

老若男女がつとえる田舎まち横山

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 ひとりひとりが地域づくりに参加するまちづくり

【具体的な取組み】

- 男性も参加しやすいサロン（交流の場）活動を行い、男性ボランティアを増やす
- 学校やPTAとの連携も考え、様々な世代の人のアイデアを生かしたイベントを開催する
- 子どもの登下校の時間帯に併せた健康づくりウォーキングを推奨する

重点取組み②

【目 標】 災害に強いまちづくり

【具体的な取組み】

- 隣近所のお付き合いを大切にし、顔の見える関係を継続する
- 防災マニュアルを家庭でも地域でも身近になる取組みを進める
- 地域に合った防災訓練や研修等を行い、減災の取組みを進める

重点取組み③

【目 標】 暮らしやすいまちづくり

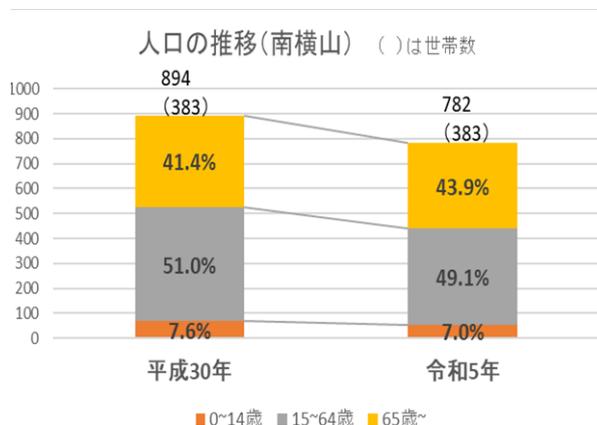
【具体的な取組み】

- 話しあいの場を継続させる
- なんでも相談会を定期的を開催し、住民自身が助けを求める（受援力）をつけよう
- 横山のあたらしいささえあいの形を考えていこう



南 横 山 校 区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	3
	校区社協役員数	20
	校区社協ボランティア数	33
	民生委員・児童委員数	5
	老人クラブ会員数	197
	いきいきいずみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	2
	高齢者見守り協力事業所数	3
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
	自主防災組織の有無	無
対象者数	ふれあい訪問利用者数	0
	誕生月訪問利用者数	23
	避難行動要支援者登録者数	8

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.困りごとの相談窓口がわかりやすいまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	2.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.体育館やプール
2.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の地域での見守り訪問	1.自然や環境の保ご活動をする
	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子どもの居場所づくり	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	2.自然や環境の保ご活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 子どもも含めた顔の見える関係づくりが、地域防災・防犯力UPに繋がる。
- ❖ 自然豊かなまちの良さを子どもや若い人たちに継承することが大切。まちの魅力を知り、移り住む人が増えてほしい。
- ❖ 高齢者がそれぞれの強みを活かし、いきいきと過ごせる居場所づくりが大切。

子どもまんなか健康長寿のまち南横山

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 防災・減災に向けて“助けてと言える・わかる”仕組みづくり

【具体的な取組み】

- 基本的な防災・減災の学習会を開催する
- 連絡網の見直しと、いざという時に助け合える体制を整える
- 実践的な防災訓練を年に1回は実施する

重点取組み②

【目 標】 高齢者がいつまでも安心して暮らせるまちづくり

【具体的な取組み】

- 趣味や生きがいを見出せる居場所を作る
- 困りごとをつぶやける居場所を作る
- 世代を問わないスポーツなどを通じた交流の場を作る

重点取組み③

【目 標】 子育て世代が住みやすいまちづくり

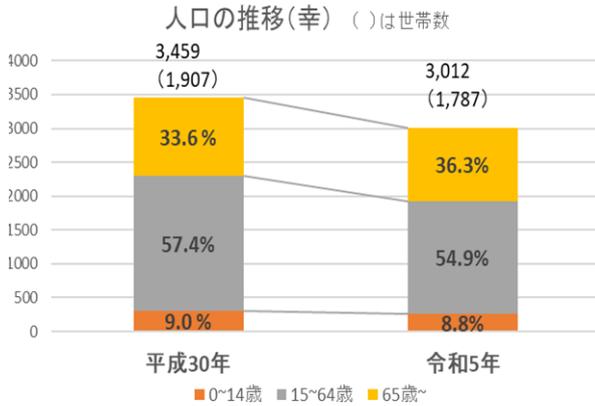
【具体的な取組み】

- 「こんにちは！元気？」大人同士子どもを含めた地域全体でのあいさつ運動
- 地域の伝統・文化を発信・PRしていく
- 地域の中に放課後の子どもたちの居場所を作る



幸 校 区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	4
	校区社協役員数	14
	校区社協ボランティア数	17
	民生委員・児童委員数	11
	老人クラブ会員数	292
	いきいきいずみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	2
	高齢者見守り協力事業所数	9
	子ども食堂（子どもの居場所）数	1
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	26
	誕生月訪問利用者数	216
	避難行動要支援者登録者数	50

ふくしアンケート結果ランキング（抜粋）

こんなまちだといいな	
1.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
1.買物が便利なまち	
2.障がい者の理解が進みバリアフリーなまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども（小学5年生/中学2年生）
1.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.高齢者の経験や強みを活かせる場所	2.サッカーや野球などができる運動場
3.子育てを応援してくれる場所	2.体育館やプール
	2.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
	2.自由に使える友だちとのたまり場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども（小学5年生/中学2年生）
1.子どもの登下校の見守り	1.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子どもの居場所づくり	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.子ども食堂	2.自然や環境の保ご活動をする

地域での話しあい（ワークショップ）での意見

- ❖ 小学校の統廃合と市営住宅の建て替えなどでまちの形態や住まう人の変化が予想される。そのことも踏まえたまちづくりを進めていこう。
- ❖ 子どもから高齢者までこのまちにあった住みやすさを考えていきたい。

町会中心に住民自治の力をつける新しいまちづくり

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 多世代・多様性を理解した居場所づくり

【具体的な取組み】

- 地域のかたちにあった出張モーニングの拠点を増やし、多くの人が利用しやすい仕組みづくりを行う
- 子どもが地域住民と交流できる拠点を作り、子どもの声をキャッチできる体制づくりを行う
- 町会・自治会など各種団体の役割分担を整理し地域づくりを進める

重点取組み②

【目 標】 とおり近所の声かけと自分の身は自分で守る防災

【具体的な取組み】

- 『自分の身は自分で守る！』意識を高める啓発活動（研修等も含む）を行う
- 「災害時にはとりあえずこうする」など日頃から習慣化する防災訓練を行い自助・共助の仕組みづくりを行う
- 町会単位での防災に関する取組みを進める

重点取組み③

【目 標】 みんなが生活しやすいまちづくり

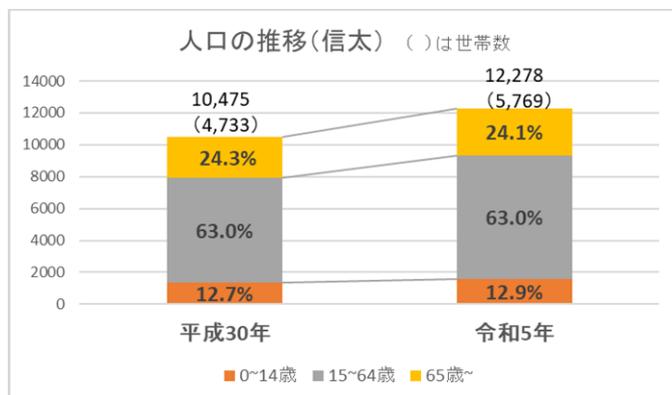
【具体的な取組み】

- 『一緒に行こう・元気か？』などの声かけやあいさつでつながり、地域での顔の見える関係づくりを進めるとともに、高齢者など買い物に困っている人がどれだけいるか把握し、新たな助けあいの仕組みについて考える
- みんなが使える社会資源の情報を整理し可視化したものを発信する
- 人にやさしい人権豊かな福祉のまちづくりを地域各種団体や人権文化センター（隣保館）をはじめとした地域内施設と連携・協働しながら推進していく。



信太校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	12
	校区社協役員数	91
	校区社協ボランティア数	82
	民生委員・児童委員数	20
	老人クラブ会員数	207
	いきいきいずみ体操数	4
	おたがいさまサポーター数	12
	高齢者見守り協力事業所数	12
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	51
	誕生月訪問利用者数	211
	避難行動要支援者登録者数	89

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
	2.インターネットが使えるしせつ
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の地域での見守り訪問	1.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
2.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	2.自然や環境の保ご活動をする
3.子どもの登下校の見守り	3.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 住民や事業所、関係団体で連携しながら、支援が必要な方の見守り、支え合いができる地域作りをこれからも目指していきたい。そのためにも見守りに対する理解を深めることも大切だ。
- ❖ 防災の啓発、世代間の交流、色々な地域課題の解決等も含んだ話しあい(協議の場)をこれからも行っていこう。

自分もみんなも大切にする

明るい幸せなまち 信太校区

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 地域で見守り、ささえあえる信太校区を目指す

【具体的な取組み】

- ボランティアと民生委員で見守り活動について、情報交換や共有のための話しあいの場を持つ。その次の段階として町会や老人クラブも一緒に話しあいを行う
- 見守り方法や認知症などについて、定期的に勉強会・研修会を開催する
- ご近所同士や関係機関、団体とのつながりを大切にした見守り活動を継続すると共に、地域の気になる人とつながるきっかけ作り（仕組み）を検討する

重点取組み②

【目 標】 防災の備えとして、無理なくできることを考える

【具体的な取組み】

- 消防団や学校等と連携し、多世代が参加できる形で校区全体の避難訓練を開催する
- 避難場所や日頃の備えの確認など、自分たちでできる自助の大切さを啓発する
- 消防団とも連携し、備蓄倉庫の見学等を通じて、いざという時に動けるように備える

重点取組み③

【目 標】 地域のつどい・つながり作りを考える

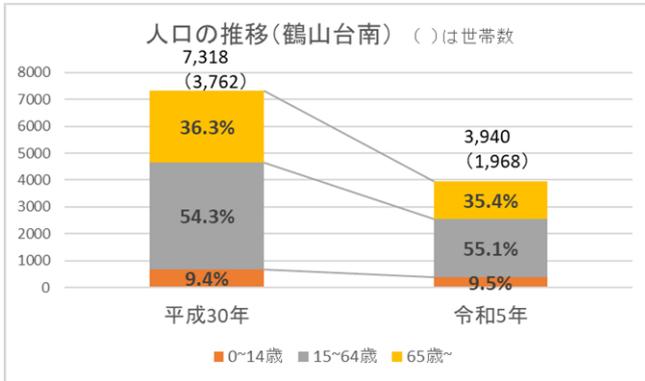
【具体的な取組み】

- サロン活動や校区社協の活動など、広報誌の作成や放送を活用し広報活動を検討する
- 買い物がしやすい町を目指し、移動販売の活用や総菜などの販売ができる場作りを検討する
- 信太校区いきいきサロンや町内スタンプラリー、食を通じた交流の場等、子どもから大人まで、楽しく参加できる交流の場を増やし、地域のつながりの大切さを伝えよう



鶴山台南校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	12
	校区社協役員数	26
	校区社協ボランティア数	56
	民生委員・児童委員数	10
	老人クラブ会員数	164
	いきいきいずみ体操数	2
	おたがいさまサポーター数	8
	高齢者見守り協力事業所数	4
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	19
	誕生月訪問利用者数	261
	避難行動要支援者登録者数	52

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.雨の日でも遊べる場所
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.高齢者の地域での見守り訪問	2.自然や環境の保ご活動をする
3.子どもの居場所づくり	3.校区の清そう活動やリサイクル活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 高齢化が進むなか、災害時でも支え合える関係を作るために、日頃からのつながり作りの大切さを改めて確認できた。だからこそ、地域の集い場の活動や交流を進め、地域の団体や住民の意見交換の場「協議の場」も継続して行っていこう。
- ❖ 地域の防災について、継続して考えるために、新たに防災のワーキングチームを作り、活動や協議を着実に進めていこう。

防災をテーマに皆がつながり、 安心安全なまちづくりを目指す

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 防災に強いまちづくり

【具体的な取組み】

- R6～7年度には第3住宅や中地区等の自主防災組織の訓練見学等を行い、R8年度には校区全体の避難訓練を行う
- 子どもから大人、若い世代も参加したくなるような防災の啓発や企画（小中学校との連携、防災倉庫の見学等）を検討する
- 各家庭での危機管理についての啓発や研修会等を積極的に行い、地域の集い場や個別の見守り活動の場でも啓発を行っていく

重点取組み②

【目 標】 地域のつながりづくり

【具体的な取組み】

- 子どもから大人まで、気軽に集え、話せる場を作る
- 地域活動や協議の場の内容についての広報の充実、紙媒体での啓発に加えて、SNS等の活用も検討する
- 身近な場所でのつながり作りを通じて、災害時にも助けあいができる関係性を構築する

重点取組み③

【目 標】 話しあいの場づくり

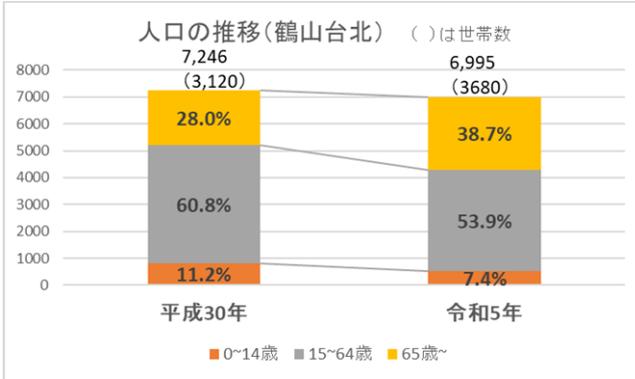
【具体的な取組み】

- R6年度に、町会役員の代表、防災リーダー、有志ボランティア等が中心となり、「防災ワーキングチーム」を立ち上げ、校区の防災の取組みを計画的に進める
- 目標に挙げた地域活動を計画的に進めるため、協議の場で話しあいを行う。協議の場では、防災ワーキングチームの動きの報告、共有も行う
- 男性が交流できるような新たな集い場作りを検討する



鶴山台北校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	10
	校区社協役員数	35
	校区社協ボランティア数	78
	民生委員・児童委員数	10
	老人クラブ会員数	327
	いきいきいずみ体操数	6
	おたがいさまサポーター数	7
	高齢者見守り協力事業所数	0
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
対象者数	自主防災組織の有無	有
	ふれあい訪問利用者数	28
	誕生月訪問利用者数	128
	避難行動要支援者登録者数	80

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買い物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.災害時の避難体制や避難所の運営がわかりやすく示されているまち	
3.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生・中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.自由に使える友だちとのたまり場所
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの居場所づくり	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.高齢者の地域での見守り訪問	3.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 鶴北校区はいろいろな活動をしているので、現状の活動を持続可能な形につなげていく事が理想であり、自分たちの地域は自分たちの手で守っていききたい。
- ❖ 子どもから高齢者まで誰もが活躍できるようにしていきたい。

鶴山台北校区の活動テーマ

子どもから高齢者まで誰もが繋がれる地域づくり

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

- ① 【目 標】 子どもも高齢者も参加したくなる世代間交流の場を増やしていく

【具体的な取り組み】

- 大人も子どもも集える行事等を企画し、参加してもらえるように考えていく
- あいさつ運動で子どもたちと顔の見える関係を増やし、小中学校等とお互いに協力できる行事を増やしていく
- 既存の地域の集まりの場を、子どもから高齢者まで参加できるように考えていく

重点取り組み②

- ② 【目 標】 地域で取り組む見守り体制づくり

【具体的な取り組み】

- 登下校時の見守りあいさつ運動に加え、集まりの場も活用して地域のみんなが子どもたちを見守っていく方法を考えていく
- 支援を必要としている方と繋がる仕組みづくりに取り組んでいく
- 防災訓練等で、支援を必要としている方の安否確認に行くときには、防災用品などを持参し、災害への備えや、日頃からのご近所とのつながりが大切なことを説明していく

重点取り組み③

- ③ 【目 標】 地域の誰もが活躍し続ける地域づくり

【具体的な取り組み】

- 各種団体が連携しながら、情報共有などの話しあいを進め、お互いが協力できることを見つけていく
- 地域のニーズを発信しながら、対応できる経験やスキルを持った人を見つけていく
- 地域の人々が活躍できる仕組みづくりを考え、新たな担い手を増やしていく

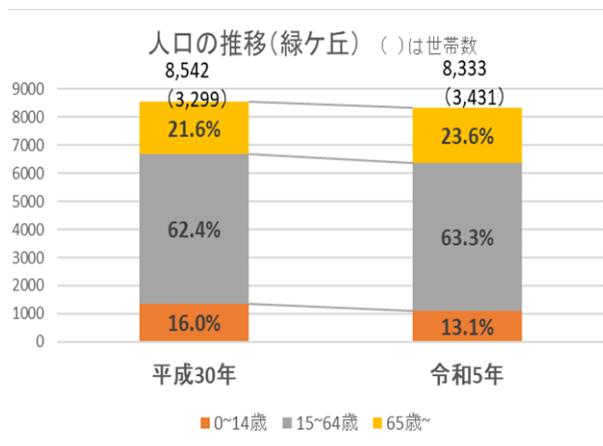


地域福祉活動計画で
取り組んだ新たな活
動はこちら →



緑ヶ丘校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	5
	校区社協役員数	24
	校区社協ボランティア数	61
	民生委員・児童委員数	9
	老人クラブ会員数	204
	いきいきいずみ体操数	7
	おたがいさまサポーター数	26
	高齢者見守り協力事業所数	3
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
対象者数	自主防災組織の有無	有
	ふれあい訪問利用者数	42
	誕生月訪問利用者数	106
	避難行動要支援者登録者数	69

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.通学路の見守りをしてくれる人が多いまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
2.買い物便利なまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	1.雨の日でも遊べる場所
2.子育てを応援してくれる場所	2.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.体育館やプール
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.子どもの居場所づくり	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	2.校区の清そう活動やリサイクル活動をする
2.子ども食堂	3.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.子育て世代の交流の場づくり(子育てサロンなど)	3.自然や環境の保ご活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 新たな担い手発掘のため、若い人たちの得意なことや興味のあることを活かせる場面があればよい。イベントなどの催しに部分的に関わってもらうなど、負担感なく楽しさを感じられるような工夫や役割分担が必要。
- ❖ 校区の地域福祉活動を小学校での福祉学習やSNSなどを活用しPRしてはどうか。

ゆるやかに見守りができ、 日常の生活を支えられる緑ヶ丘

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 地域の課題を話し合える場づくり

【具体的な取組み】

- 地域にある団体の活動について情報交換できる場を設ける
- 多くの人に共通する「防災」をきっかけに、話しあいや勉強会について検討する
- 地域福祉について、より多くの人々が自分ごととして考えられるよう、話しあいや勉強会を検討する

重点取組み②

【目 標】 認知症になっても安心して暮らせる緑ヶ丘

【具体的な取組み】

- 自治会単位で実施している認知症サポーター養成講座を今後も継続する
- 啓発物の作製・配布について検討する
- 行方不明になったときの連絡手段・方法について考える

重点取組み③

【目 標】 子どもたちを含めたあらゆる世代が集える場づくり

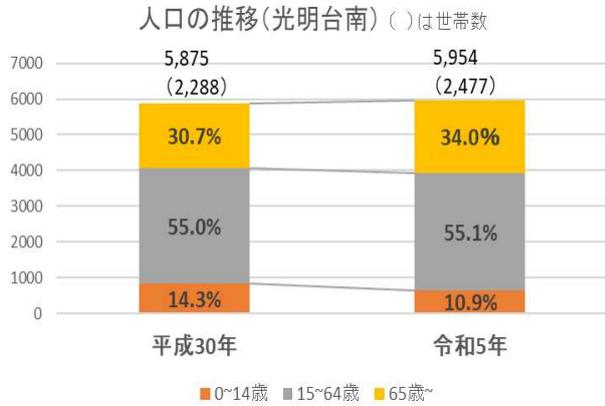
【具体的な取組み】

- 福祉体験学習を入り口に小学校との連携を深め、登下校見守り隊との連携も深める
- 参加者の得意なことを活かし、無理なく続けられる方法を検討する
- 地域交流の場でできたつながりが災害時にも活かされる関係性をつくる



光明台南校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	4
	校区社協役員数	19
	校区社協ボランティア数	37
	民生委員・児童委員数	11
	老人クラブ会員数	237
	いきいきすみ体操数	2
	おたがいさまサポーター数	13
	高齢者見守り協力事業所数	3
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	28
	誕生月訪問利用者数	82
	避難行動要支援者登録者数	61

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
3.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.雨の日でも遊べる場所
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.体育館やプール
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.地域や世代を問わない誰もが食を通して集える場づくり	1.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.高齢者の地域での見守り訪問	2.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
3.子どもの登下校の見守り	3.校区の清そう活動やリサイクル活動をする

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 地域全体で、子どもやその家族が過ごしやすい場について考えることで、他の住民も元気や明るさをもらうきっかけが増え、地域の未来も膨らんでくるだろう。
- ❖ 防災、相談窓口、世代間交流を考える際も、参加したくなる楽しさや新しさを視野に入れ、柔軟な取組みを進めていくことも大切だろう。

ご近所同士のつながりがすべての原点

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 地域ぐるみの子育て・子育て ～子どもは地域の宝～

【具体的な取組み】

- 小中学校との連携を図り、子ども達からの声・発信を大切に、光明台フェスタやアイデアコンテストなどを通じて、子育ての支援をしよう
- 地域の子供達との居場所や、子どもも高齢者も交流できる場を作ろう
- げんきっ子活動を充実させて、地域の方々と共に元気になろう

重点取組み②

【目 標】 地域の見守り・防災・防犯 ～防災・防犯 認知症への理解を地域のみんなで深める～

【具体的な取組み】

- 住民だけでなく地域の商業施設の方等も交え、地域ぐるみで認知症声掛け見守り訓練を継続し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指そう
- 多くの方が参加したくなるような校区全体の避難訓練を実施し、住民の防災意識をより一層高めよう
- 校区全体で避難行動要支援者への体制づくりに取り組もう

重点取組み③

【目 標】 地域の助けあい・ささえあい ～楽しんで交流～

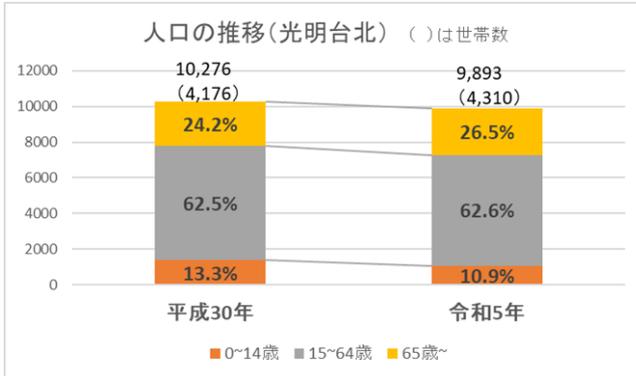
【具体的な取組み】

- 校区全体で挨拶運動を推進しよう
- 若い世代が地域活動に参加しやすくなるように広報誌などを活用し、地域活動の情報発信、PRを推進しよう
- ご近所カフェなど、身近なご近所同士で助けあいや要支援者の方への見守り活動を進めていこう



光明台北校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	16
	校区社協役員数	13
	校区社協ボランティア数	49
	民生委員・児童委員数	13
	老人クラブ会員数	344
	いきいきいずみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	30
	高齢者見守り協力事業所数	2
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	24
	誕生月訪問利用者数	126
	避難行動要支援者登録者数	61

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
2.買物が便利なまち	
3.幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2.思いっきり遊べる広い公園や広場
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子ども食堂	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.高齢者の地域での見守り訪問	3.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
2.施設などへの慰問及び交流のための訪問	

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 校区として大事にしてきた住民の交流の場であるサロン活動を継続、充実に努めて行こう。参加者やボランティアの拡充も目指していく。

光明台北校区の活動テーマ

あいさつ、ありがとう運動を通じ、地域の絆を高める

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 見守り活動を充実させて、もっとみんなが住みやすい町を作る

【具体的な取組み】

- 地域全体での「あいさつ、ありがとう運動」を通じて、住民のつながりを作り、認知症の方や家族、誰もが住みやすい地域作りを目指す
- 認知症サポーター養成講座を積極的に実施する
- 高齢化が進む中、一人暮らしの高齢者等の見守り方法を検討する

重点取組み②

【目 標】 ふくしの輪をさらに充実させる

【具体的な取組み】

- いきいきサロンや趣味のサークル活動をふやす
- 散歩や清掃活動を行い、交流のきっかけを増やす
- 老人会、民生委員・児童委員、校区社協ボランティアが連携するため、情報共有の場を作る

重点取組み③

【目 標】 広報誌を発行し、地域のつながり作りに活かす

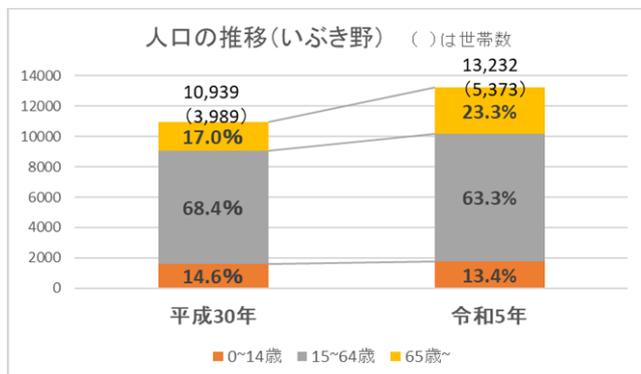
【具体的な取組み】

- 地域の様々な活動等の情報を発信するために、広報誌等を作成する
- 世代間交流をさらに進める
- 友達作戦、近所の人に、広報誌等を有効活用して、活動の参加の声掛けを行う



いぶき野校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	9
	校区社協役員数	15
	校区社協ボランティア数	41
	民生委員・児童委員数	14
	老人クラブ会員数	147
	いきいき体操数	5
	おたがいさまサポーター数	18
	高齢者見守り協力事業所数	6
	子ども食堂(子どもの居場所)数	0
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	0
	誕生月訪問利用者数	119
	避難行動要支援者登録者数	78

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.困りごとの相談窓口がわかりやすいまち	
2 住民同士のまとまりや助けあいが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを活かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.子育てを応援してくれる場所	2.雨の日でも遊べる場所
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.静かに宿題・勉強ができる場所
	3.いろいろな遊び道具があって自由に遊べるしせつ
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の地域での見守り訪問	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子どもの居場所づくり	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
3.災害ボランティア	3.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ コロナ禍での数年間は、話しあいの会議をしたくてもできなかった。コロナもおさまってきたので、みんなでいぶき野のことを話しあい、目標に向かって活動に取り組んでいきたい。

住み続けたい つながいがある 明るい豊かな街

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 笑顔でつながる街づくり

【具体的な取り組み】

- 明るいあいさつを広めていく
- 困った時の相談窓口の情報を届ける
- 朝・夕の散歩時の見守り活動など、ライフスタイルに見守りを取り入れる

重点取り組み②

【目 標】 災害時に困らない街づくり

【具体的な取り組み】

- 非常食等の備蓄を各家庭で取組めるようにする
- 防災訓練を定期的に行い、習慣になるまで続ける
- 防災マニュアルから学び、活用していく

重点取り組み③

【目 標】 人々の交流が増える街づくり

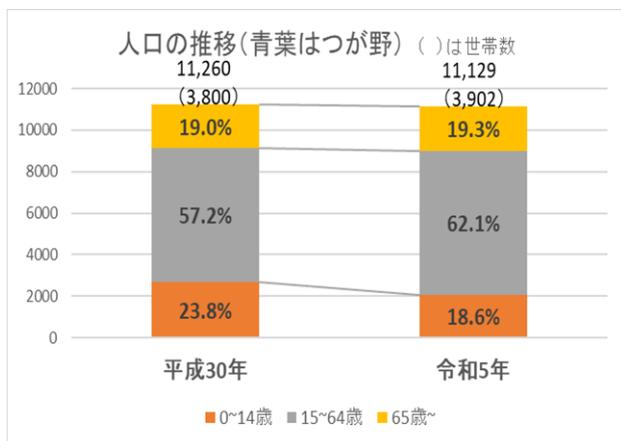
【具体的な取り組み】

- 子どもや高齢者が一緒に集えるように集える場を考えていく
- 身近な集いの場の開催情報を周知していく
- 既存の行事にプラスアルファの内容を考えて、多くの人が交流できるようにする



青葉はつが野校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	4
	校区社協役員数	11
	校区社協ボランティア数	58
	民生委員・児童委員数	10
	老人クラブ会員数	458
	認知症サポーター数	3
	おたがいさまサポーター数	13
	高齢者見守り協力事業所数	1
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
自主防災組織の有無	有	
対象者数	ふれあい訪問利用者数	0
	誕生月訪問利用者数	110
	避難行動要支援者登録者数	66

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.困りごとの相談窓口がわかりやすいまち	
2.みんなが集まれるイベントやお祭りがあるまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.高齢者の経験や強みを活かせる場所	2.雨の日でも遊べる場所
3.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.インターネットが使えるしせつ
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.災害ボランティア	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.高齢者の地域での見守り訪問	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	3.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
2.子ども食堂	

地域での話しあい(ワークショップ)での意見

- ❖ 地域情報ネットワークの構築が必要だ。
- ❖ 「ひとりではない」、他人(ひと)と「伴走」することの大切さ。
- ❖ 参加自由、不参加自由の<緩やかな組織>、<ゆるやかな活動>が必要だ。大きなイベントではなく、小さなイベントを大切に。

青葉はつが野校区 新たな出発に向けて

私たちの重点取組み

重点取組み①

【目 標】 話しあいの場づくり（情報共有）

【具体的な取組み】

- 現行のリーダー会議のメンバーが中心となり、テーマごとに、広く関係機関に参加を呼びかけ、定期的な意見交換、情報交換を実施する。
- 対面での交流とともに、SNS を活用した多様な情報交換を実施する。
- 高齢者の孤立を防ぐために、地域に則した見守り活動の在り方を検討する。

重点取組み②

【目 標】 地域活動の活性化

【具体的な取組み】

- 現行リーダーがそれぞれ個別に「懇親会」を開催し、それを通じてボランティアを獲得する。
- ボランティアとして、若い世代、地元大学生に参加を働きかける。
- ボランティアの定着のために関係者の情報共有を充実する。

重点取組み③

【目 標】 世代間の交流を後押しできるまちづくり

【具体的な取組み】

- それぞれが実施する事業に必ず「世代間交流」プログラムを企画し、少なくとも年 1 回の実施に努力する。
- 子育てサロンに「先輩ママ」「爺」「婆」も参加し、世代交流を図る。
- 小さな子どもを持つママやパパの子育てを支援する「子育てサロン」を引き続き開催する。

